

令和2年度 農作業事故防止中央推進会議

# 「長崎県における農作業安全 の取り組みについて」



長崎県農業機械士連絡協議会

会長 中尾 政幸



# 1. 長崎県の農業の概要

# 長崎県農業の概要



○九州の最西端に位置

- 
- 温暖な気候を活用した農業
  - 大消費地から離れた地理的条件も

○多くの離島や半島から成り立ち、地形は複雑、急傾斜が多く、耕地条件に恵まれていない箇所も

※県土面積の約44%が離島



傾斜度比率	全国	長崎県
水田1/20以上	14%	48%
畑10度以上 (樹園地除く)	4%	9%

# 本県農林業の概要、特徴

## 1. 農業算出額の動向

単位：億円、%

年	H20年	H28年	H29年	H30年
本県産出額	1,396	1,582	1,632	1,499
対前年比	103.5	101.9	103.2	91.9
全国順位	22	22	22	22

◎農業産出額トップ5に入る品目（H30）

第1位：びわ

第3位：ばれいしょ

第4位：たまねぎ、いちご

第5位：葉たばこ、きく、カーネーション

## 2. 産出額上位5品目

単位：億円

	1位	2位	3位	4位	5位
H30	肉用牛 259	米 135	みかん 122	豚 120	いちご 112
H29	肉用牛 241	米 131	みかん 129	豚 123	ばれいしょ 110



## 2. 本県の農作業事故の現状

# 本県の農作業死亡事故概要 (原因別)

〔原因別〕		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
農業用機械作業	転落・転倒	1	2	3	3	6	4		5	24
	挟まれ	1	2	1	1	1			1	7
	ひかれ					2				2
	その他	1			1		1			3
農業用機械作業以外	ほ場、道路からの転落	1		2	1	1	2	1	1	9
	農作業中の火傷	1	1			2				4
	高所からの転落						1		1	2
	溺水	1								1
	熱中症							1		1
	その他		2							2
合計		6	7	6	6	12	8	2	8	55

※令和元年、2年の件数は暫定値

- H29を除くと、毎年7名前後で推移
- 原因別では、直近、**機械作業時の転落、転倒での割合が50%程度**

# 本県の農作業死亡事故概要 (年齢別)

〔年齢別〕	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
80歳以上	3	4	2	2	6	3	2	4	26
70歳～79歳	1	2	3	1	4	4		2	17
60歳～69歳	2	1	1	3	2			1	10
50歳～59歳	0	0	0	0	0	1			1
49歳以下	0	0	0	0	0				0
不明								1	1
計	6	7	6	6	12	8	2	8	55

※令和元年、2年の件数は暫定値

高齢者の割合が高い

# 長崎県の農作業安全推進

1. 農業生産の中核となる農業者や農業者の指導者を育成する農業機械士認定制度の推進
2. 農業大学校及び長崎県農業機械士協議会による農作業安全研修の実施
3. 農作業安全確認運動の実施



### 3. 長崎県農業機械士連絡協議会について

# 組織体制など



会長

副会長、理事、監事

設立年月日：昭和51年  
(1976年)4月1日  
会員数(R2)：43名

県央支部

島原支部

諫早分会

川棚分会

波佐見分会

島原分会

## 活動内容（県全体）

会員の資質向上や、最新の情報を得るための研修会の開催

＜令和元年度＞

「無人トラクタの実用化に向けて」



大規模圃場の  
諫早湾干拓地  
で、無人トラ  
クタの実演

# 活動内容（県全体）

<平成30年度>

「ドローンの農業の実用化に向けて」



- 農薬散布など、利用の拡大も進む
- 一方で、関係する法律の理解も必要



# 活動内容（各支部）

1. 春・秋の農作業安全確認運動の実施
  - ・のぼりの設置、ポスターの掲示やチラシの配布。



のぼり設置活動  
(諫早支部諫早分会)



のぼり設置活動  
(島原支部)

2. 農業祭など、イベント時を活用した、農作業安全に関する啓発活動



農業祭りでブース設置、  
周知活動  
(島原支部)



農業祭りでブース設置、  
周知活動  
(県央支部)

# 活動内容（各支部）

## 3. 農作業安全及び農業機械研修

- ・ 県内各地での農作業安全研修会や集落座談会での研修会の実施



農作業安全研修会  
(吉岐)

集落座談会での啓発活動  
(県央支部川棚分会)



県農業大学校での研修受講

## 4. 高齢農業者への農作業事故への注意喚起（ベテラン農業機械点検）



# 本県連絡協議会の課題

## 課題1. 会員の高齢化

◎高齢化が年々進んでおり、各地域での活動の停滞が懸念。

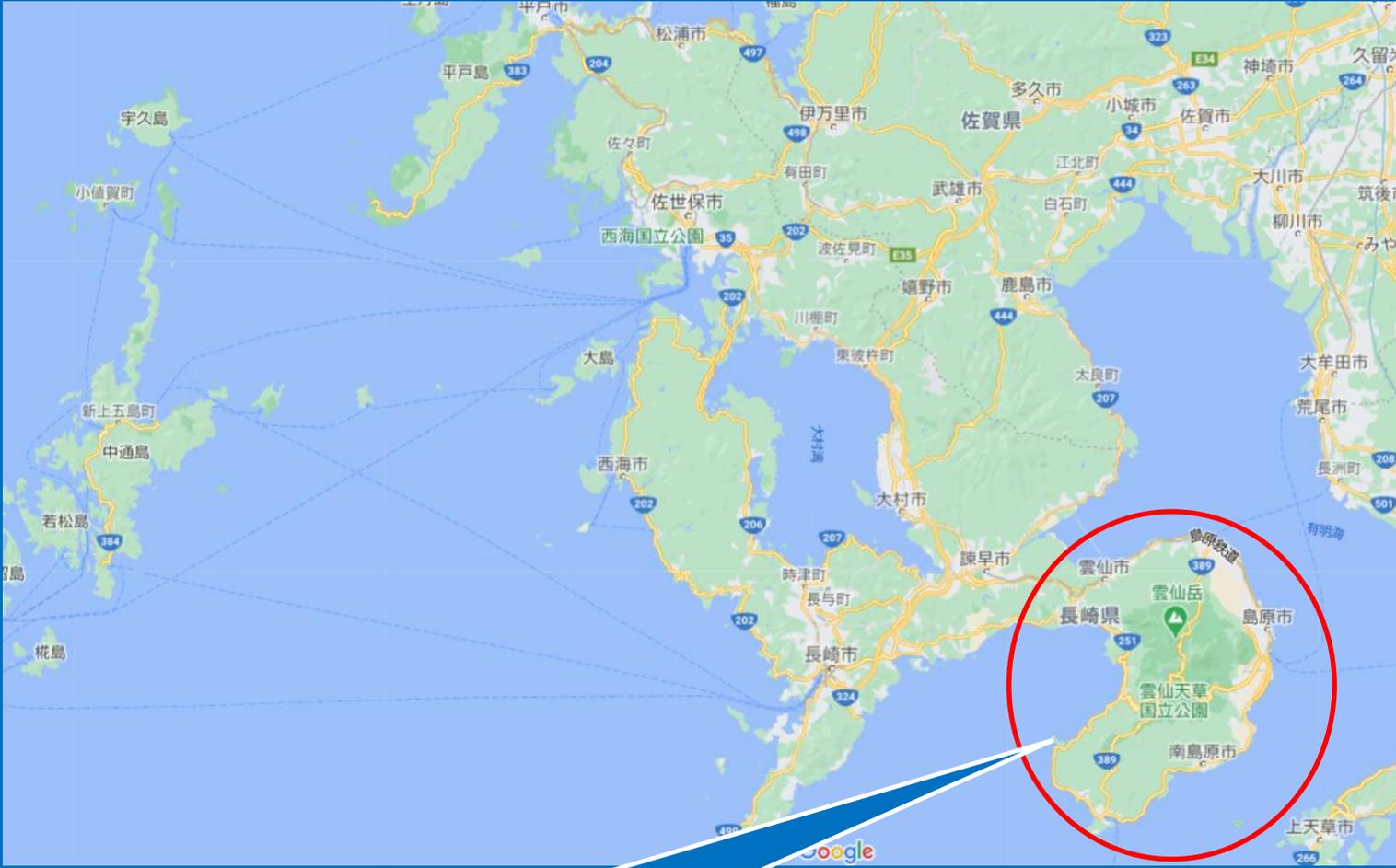
→対策：各作目部会、集落営農組織役員の機械士資格取得を推進

## 課題2. 活動のマンネリ化

◎以前 会合時に機械士より農作業安全講義の場があったが、機会が年々減少。  
現在 のぼりの設置、チラシ、ポスターの配布活動が主、効果が見えにくい。

→対策：活動対象の重点化や波及を検討

## 5. 各支部での取り組み



◎島原半島→県を代表する農業地帯（県農業粗生産額の約4割）

- ・恵まれた気候と土地条件
- ・畑作農業が中心、多様な産地となっている（露地野菜、施設園芸、畜産・・・）

・県の南東部、雲仙普賢岳を有する島原半島に位置

# 島原支部での取り込み（本年度）



島原支部

対象：JA生産部会

◎本年度から  
→雲仙ブロッコリー部会

- 基盤整備＋規模拡大

※昨年度、  
農林水産祭天皇賞受賞

# 島原支部での取り込み（本年度）



ヒヤリ1  
段差

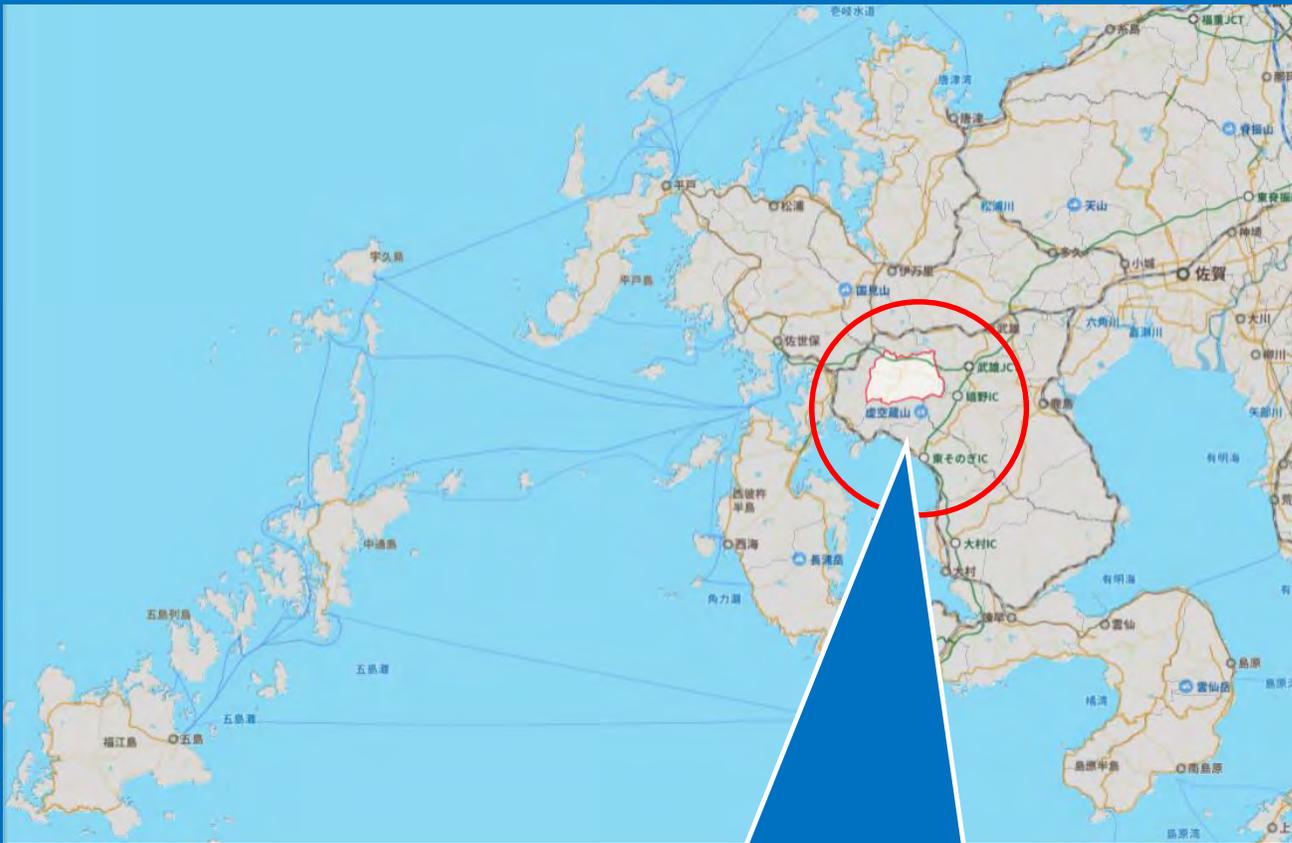


ヒヤリ2  
見通しの悪さ



- ヒヤリする箇所、経験あり。
- だが、農作業安全の意識は低い。

→生産に加え、安全意識を高める必要  
(部会長)



## ◎波佐見町



- 基盤整備された水田。
- 大型機械による米麦一貫体系での農業が展開。
- 近年、8つの集落営農法人が設立。

• 県のほぼ中央に位置。焼き物の町  
(波佐見焼)



## 県央支部での取り組み（本年度）

- ・オペレーターの高齢化。
  - ・だが、農作業安全の意識は低い。
- 生産に加え、安全意識を高める（部会長）



# まとめ

## 対象

## 現状、課題

## 期待される効果

県央支部（各分会）

対象：集落営農法人

・機械や作業の共同化、  
活動も活発化

→オペレータの高齢化、  
新しい作業への安全対策

◎他の組織への農作業安全  
意識向上

◎労働安全の確保

島原支部

対象：各作目部会

・これまで、所得向上  
やブランド化が中心

→農作業安全意識の不足

◎他の部会、個人の  
意識向上

◎安全対策→  
後継者が就農しやすい環境  
にも

# 春の農作業安全運動

期間：4月1日（木）～6月30日（水）

春になると農作業が増えてくるとともに、農業機械を使用する機会も増え、それに伴う作業中の事故が発生しやすくなります。

毎年、農作業中の事故により全国で300名前後、県内でも多い年で10名前後の尊い命が失われています。

特にトラクター運転時のシートベルト未着用による死亡事故が多発しています。乗用車だけではなく、乗用型農業用機械の運転時にもシートベルトを着用しましょう。以下の事項を再度確認して農作業安全に努めましょう！！

■ 日頃の作業を振り返り、自分の取り組みをチェックしてみましょう！

No.	項目	内容	チェック欄
①	正しい服装	作業に適した服装を	
②	所在連絡	作業内容や作業場所を家族などにきちんと伝達	
③	携帯電話	緊急時に備え、携帯電話を忘れずに	
④	体力調整	準備運動をしっかりと	
⑤	焦り防止	余裕をもった無理のない作業計画を	
⑥	作業者確認	子供、妊婦、不慣れな人に危険作業はさせない	
⑦	周囲確認	周りの作業者に危険が及ばないように、周囲を確認	
⑧	複数人作業	危険作業は複数人で	
⑨	機械安全確認	シートベルト等の安全装置をきちんと装着	
⑩	エンジン停止	機械から離れる時や点検する時はエンジンを切る	
⑪	適当な休憩	疲労が蓄積しないようにこまめな休憩を	
⑫	危険箇所の確認	危険箇所を確認し、看板等目印を設置	
⑬	技術講習	不慣れな機械作業は講習を受けてから	
⑭	労災・共済	万一の事故に備え、労災保険や傷害共済に加入！	
⑮	応急処置	万一の事故に備え、応急処置の知識を身につける	

<長崎県 農林部 農業経営課>

ご清聴  
ありがとうございました。